

## 「陰ながらできる お手伝いの 喜び」 支援活動の「前半」をふり返って -

～ 市民の方が 再び本を手にとれる日を 願って ～

私たちが名取市に到着したのは、地震発生から1カ月の時期でした。避難所や市役所庁舎などを訪問すると、市職員や災害対策関係者が、目の前にある命や生活に関わることなどの緊急的対応に追われており、緊張感がひしひしと伝わってきました。今は、そのことに加え、復興という課題にも立ち向かっていらっしやいます。

そのような中、図書館の職員は、一刻も早い図書館の再開を願いつつ、避難所担当や罹(り)災証明発行などの緊急に対応しなければならない事務や作業にも従事しています。

我々にできることは、図書館がどのように再開するようになるかはわかりませんが、その時に、すぐ対応できる準備をしておくお手伝いではないかと思っています。この考え方を、名取市の図書館はもとより、教育委員会や市役所もご理解をいただき、石狩市を気持ちよく受け入れていただいたのではないかと考えています。

今回の支援活動について現地の方から「今、図書館支援なのか？」「優先すべき支援は何なのか？」など、ひょっとしたら疑問をもたれる方がいるのではないかと・・・、そんな不安が全くなかったわけではありません。

しかし、私たちは、この一週間、「本はきっと人々の心の癒しになる、図書館の再開は復興の力となる。」石狩市を出発する際に、田岡市長が私たちに力強く言って送りだしてくれたことを心の支えに、また、教育長始め積極的に支援環境をつくっていただいた職場、さらには、市民グループや企業の協力を背景に、自信を持って地元の読み聞かせや災害などのボランティアの方々といっしょに、取り組むことができたと思っています。

微力ではありますがお手伝いができたことを、とても嬉しく思います。本当に、ありがとうございました。



図書館で作業をしていると、市民の方から日に何本もの電話がかかります。ほとんどが、いつから再開するかという問い合わせです。閉館していることがわかっているにもかかわらず、直接、来館される方もいらっしやいます。時には、「いつまで閉館しているんだ！みんな頑張っているんだぞ」と、怒りをぶつけていく方も・・・。

いずれにしても、図書館を愛し、再開を待ちわびていることに違いないのです。部外者が差し出がましいと承知しつつ、しかも、建物の状態や職員体制など現実的な課題は多いと思いますが、一日も早く図書館サービスが再開されるよう心から祈るとともに期待しています。



ブックンボックスを置かせてもらった場所に、再度行ってみました。嬉しいことに利用していただけていました。(上) 児童センター  
(下) 文化会館



滝川市が文化会館を訪問、一緒に本やおもちゃの整理をしました。同市は宮城県内の被災地を移動図書館車で訪問しています。

## 「 離れの2つの倉（書）庫の整理が ほぼ完了 」

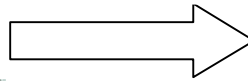
雨が降り肌寒い気候の中、地元のボランティア6名の皆さんと一緒に作業しました。約3万9千冊の本は、ほぼ整理された状態で書架に戻りました。

ボランティアの方は、昨日と人の入れ替わりはありましたが、今日も一生懸命の方ばかりでした。



こんなに キレイに！

離れの平屋倉（書）庫



離れの2階建て倉（書）庫の2階

### 編集後記

名取市滞在の10日間は、あっという間に過ぎました。当初は、被災地域に入ることや長期間の滞在予定に不安を感じることもありましたが、一緒に来た仲間や、名取の方々と共に活動をしていくにつれ、協力して活動していく充実感を味わわせて頂きました。感謝です。（T）

余震に怯えながらの毎日でしたが、全てが貴重な経験となりました。被災にあった人、それを支える方々、災害時の行政運営など、見て・聴いて・感じて、改めて日本で大震災が起こったことを実感しました。お忙しい中で報告書の配信・視察・打合せなど、毎日対応していただいた名取市図書館の皆さんに感謝申し上げるとともに、これを機に交流が進み、復興に向けてさらなる支援ができることを祈っています。（Y）



一度手を付けるとやめられなくなる作業

「がんばろう、なとり」(報告)は、今回で前半を終了します。

この度の名取市支援活動は、4月11日から5月1日までを予定していますが、前・後半で職員が入れ替わります。後半は、使用できない本などの分類などにも着手します。

現場からの速報のため、文章の誤りや不適切な表現などがあつたかもしれません。お許しください。